導入事例
ポータブルSSD
HDPD-SUTB/S
シリーズ
管理者用ソフトウェア
SUHM

取材ご協力企業 株式会社毎日放送

自動暗号化対応ポータブルSSDが放送業界ならではのセキュリティ課題を解消！　全社一斉に刷新し効果を実感

大阪を代表するテレビ・ラジオ局としておなじみの毎日放送、その番組制作の現場で「HDPD-SUTB/Sシリーズ」が大規模導入されています。背景には放送業界のセキュリティ意識の高まりがあり、さらにユーザーの利便性、管理しやすさも含め、多角的に検討された上で選ばれました。今回の導入を主導した3名、番組制作を担当する制作局業務推進部の西茂樹様、社内のIT導入・管理を担う総合技術局の露口三郎様、また、全社のITセキュリティを管轄する経営戦略局の崎山成人様に詳しくお話を伺いました。

導入商品

USB 3.2 Gen 1 (USB 3.0) ／ 2.0対応
自動暗号化&耐衝撃モデル ポータブルSSD
HDPD-SUTB/Sシリーズ

USBハードディスク
管理者用ソフトウェア
SUHM

放送局の業務に欠かせないポータブルSSD、自動暗号化でさらにセキュアに

―― 今回、約300台という規模での導入となりましたが、「HDPD-SUTB/Sシリーズ」は番組制作の現場でどのように使われているのでしょうか。

露口様： 収録したデータを一時的に保存・運搬するために使っています。ロケ収録の場合、撮影データが保存されたSDカードを社内に持ち帰り、パソコン経由でデータを取り出すのですが、その際にSSDを保存先として使用しています。また、社内スタジオ収録の場合、収録データはすべて社内サーバーに集約されます。そこから編集のために必要な部分を取り出し、社外の協力会社に渡す際にSSDを使うことが多いですね。導入の目的は情報漏えい対策の強化です。収録データはすべてオンエア前の素材となるため、その保存・運搬用のSSDにセキュリティ機能は必須です。

―― これまで、セキュリティ対策に課題があったのでしょうか。

露口様： 近年、記録メディアの紛失トラブルが世間を騒がせることが多いのですが、我々も放送局として他人事ではいられません。保存・運搬用のSSDに自動暗号化などの対策はまだ行っておらず、課題を感じていました。ポータブルの記録メディアは漏えいのリスクも高く、扱うディレクターたちにとっても精神的負担だったと思います。

崎山様： テレビ局における制作部門というものは、業務の性質上、どうしても時間的制約が多くなってしまいます。ですから、少しでも現場のストレスを減らしたいんです。セキュリティ対策も、個人や部署の裁量に任せるのではなく、全社でルールや仕組みを作って運用することで、より安心できる環境になると考えています。

露口様： そこで、データの運搬には必ず「HDPD-SUTB/Sシリーズ」を使うという社内ルールを策定し、従来の暗号化されていないSSDを社外に持ち出す運用はすべて廃止しました。「HDPD-SUTB/Sシリーズ」には自動暗号化やパスワードロックの機能がありますので、万が一紛失しても被害は最小限にとどめられるはずです。

西様： 全社一斉導入されたことには意義がありましたね。現場のプロデューサーたちが部門の予算で導入しようとすると、セキュリティはどうしても二の次になりがちです。限られた番組予算はできるだけ制作費にあてたいと考えるのが現場の人間というもの。今回、会社側から制作局に十分な台数を支給してもらえたので、レギュラー番組だけでなく、単発のプロジェクトまで行き渡りました。例外なく運用できることは重要です。

大規模導入には管理ツールが必須。多機能、高機能かつ自由度の高い「SUHM」

―― 大量の「HDPD-SUTB/Sシリーズ」を管理するために、管理ソフトウェア「SUHM」を活用されているそうですね。

崎山様： 棚卸やパスワード管理などを行っています。利用頻度の高い部署には専用ライセンスを割り当て、また、グループ会社でも導入検証のため貸与しています。

西様： 組織として大量のSSDを導入するなら、一元管理するための管理ソフトウェアが必要です。制作局では200台近く管理していますが、例えばパスワードはユーザー任せにするのではなく、ルールに基づいて各番組に決めてもらい、管理者が設定するなどして統制しています。

露口様： 「SUHM」は設定が細やかかつ柔軟で、パスワードの再設定、失敗回数上限の変更といった機能を重宝しています。また、「遠隔地パスワード修復機能」があるので、例えばロケ先でトラブルが起こっても、管理者と連絡さえ取れればパスワードの再発行手続きなどが行えます。収録した素材は絶対に外部に漏れてはいけないものであると同時に、絶対に消失させてはいけないものですから、これは心強い機能ですね。

崎山様： 設定の幅が広く、厳しく管理することもできますし、必要に応じて緩くもできます。多様なユーザーの働く現場でセキュリティ対策は欠かせませんが、あまりに厳しい運用ルールにすると生産性が低下しますので、最低限必要なルールのもと状況に合わせて使い分ける必要があります。多機能、高機能かつ自由度の高い「SUHM」には、管理部門として大いに助けられています。

取材にご協力いただいたご担当者様

株式会社毎日放送
制作局
業務推進部 兼
クリエイトマネジメント部
部次長
西 茂樹 様

株式会社毎日放送
総合技術局
制作技術センター
ネット&テクニカルデザイン担当 兼
技術計画推進部　部次長
露口 三郎 様

株式会社毎日放送
経営戦略局
エキスパート
崎山 成人 様

CLIENT DATA
導入企業／株式会社毎日放送
所在地／大阪市北区茶屋町17番1号